

第403号

発行
浄土真宗
心光寺
奥原曇龍
倉敷市早高426
☎(086)420-1311



草や木に学ぶ



カット：本多紘子

八月は孟蘭盆会の行事の月です。今年は新型コロナウイルスも少し治まりかけ外出制限が撤廃されたので、都会から故郷への帰省ラッシュがはじまりそうです。猛烈な酷暑で寝苦しい夜が続きますが、皆様方いかがお過ごしでしょうか。

7月10日に九州北部に梅雨前線が停滞し、線状降水帯が留まり記録的な雨量で福岡県・大分県・佐賀県に河川が氾濫したり、土石流が起こり、死者7人、行方不明2人の災害が発生しました。また7月15日には秋田県でも梅雨前線の影響で記録的な大雨が発生し、河川が氾濫し、秋田市の駅前や能代市の市街地が冠水しました。地球温暖化の影響で、毎年のようにどこかで河川が氾濫したり土砂崩れの災害が起きるのは、もはや想定外ではすまされません。何とかしたいですね。

お盆という行事も、本来は先祖を偲ぶ行事と言うより、人間らしい生き方とか自分とは何ものかということを真剣に考える行事だと言えます。インドのウランバーナという言葉や、中国人が孟蘭盆と漢字で表しました。逆さまに吊された苦から解放されるために自分を真剣に見つめる行事という意味です。人間は便利で物質的な豊かさを追求してきたことが、地球の環境を破壊し、人間だけでなく他の生物たちも

*心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

滅ぶとしたら、私たちの生き方や価値感を見直したいものです。

新型コロナウイルスの流行していた3年間で、人と人との交流が途絶え、家族でさえも病院にお見舞い時間が制限されたり、親戚の葬式や法事も呼ばれなくて、何もかも孤立する寂しさを味わった人たちが、これからの日本はどうなるのかと歎かれています。高齢者だけでなく、若者達も自死する人が増えてきているのは悲しいことです。人生は孤独なものです。孤立だけはしない見守る社会にしたいな。

4月からNHK連続テレビ小説「らんまん」が放送され、神木隆之介さんが春爛漫の明治の世を天真爛漫に駆け抜けた植物学者・牧野富太郎を演じていますが、愚僧は毎朝楽しく見えています。

富太郎（1862年生）は、江戸時代末期の土佐の高岡郡佐川村に裕福な商家「岸屋」の一人息子として生まれました。幼少期に父母と祖父を相次いで亡くし、祖母・浪子によって大切に育てられます。富太郎の最終学歴は「小学校中退」であるが、寺子屋や私塾などで、国学・漢字だけでなく、英語・物理学・生理学・植物学など、西洋近代科学の教育も受けています。18歳の頃に出会った高知中学校の教員・長沼小一郎の影響で科学としての植物学への意欲が芽生えます。

テレビ小説の中で、たぶん作り話であろうと思いますが、自由民権運動で演説していた早川の「我ら人民は役立たずの雑草」とか「卑しき民草と踏みにじられ」という言葉に富太郎が反論します。「名も無き草はこの世にない。人がその名を知らなければ。毒があるか薬があるか、その草の力を知らん。どんな草でも同じ草は一つもない。一人一人もみな違う」という掛け合いが、愚僧の心に響きました。

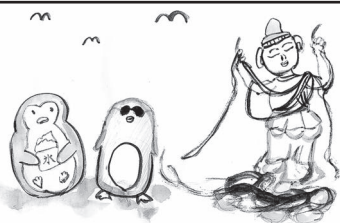
インドでは『アーユルベエダー』という古典医学があります。お釈迦様も医療の勉強をされたのでしよう。「どんな草にも名前があり、薬草にならないものはない。毒も使い方によっては薬となり、薬も使い方で体調を壊す」と言われ、医師、看護師、患者、薬の4つが正しく合わされば、病は必ず治ると言われました。合掌（奥原曇龍）

『草や木に生き方学べとお釈迦様 踏みにじられても何度も起きあがろう』 どんりゅう

ともしび説法

日時・八月二十三日「水曜日」 午前十時から十二時まで。
『歎異抄（たんにしょう）に学ぶ』
場所・倉敷市早高426 新本堂 電話086-420-1311

ともしびを読みたい方、お寺についてもっと知りたい方 [心光寺 倉敷 検索](#)



カット：奥原綾



お釈迦様ものがたり 82

仏教の比丘尼(女性) 教団において、有名な比丘尼のなかに、バスターチャーターもいます。彼女はコーサラ国の首都舎衛城の豪商の何不自由のない美しい娘でした。

豪商の父は、同じ階級の青年と結婚させようとしていたが、彼女は身分の低い下僕を愛していたので、二人で出奔して遠くの村落で愛の巣を営みます。しかしやがて男のふがいなさに愛想を尽かします。

彼女は自分の家に帰りたいと思うが、そのうちに相次いで二人の子が生まれ、貧しい暮らしが続いていた。ある時暴風雨がやって、夫は雨の漏らない家を建てたいと、ジャングルに入って材木を切り出していたが、蟻塚のある木を知らないで倒そうとして、そこから出てきた毒蛇にかまれて死んでしまった。

家にいた妻は、暴風雨の夜を二人の子が濡れないように身体の下にして過ごします。明け方に夫を捜しに出ると、蟻塚のかたわらで死んでいました。夫の死を嘆き悲しむ間もなく、雨水は家の近くの小川を満たし、家も浸水し始め、子供二人を避難させます。

まず兄を小高い丘に避難させ、弟を迎えに行こうとしたら、大きな鷹がやってきて弟をさらおうとしました。母は大きな声で追い払おうとしたが、鷹は恐れず弟を奪い飛んでいきました。母の声を聞いた兄は、自分が呼ばれていると思い、水中に落ち流されます。

一時に夫と二児を失った彼女は、悲嘆にくれて、舎衛城の父母の家に向かいます。しかし、その途中で舎衛城からやって来たひとり男と会い、自分の父母の消息を尋ねると、昨夜の暴風雨で彼女の父母と兄弟も、倒れた家の下敷きになって死んだことを話されました。彼女は気も転倒して狂い、着物が身体から落ちたのも知らなかった。舎衛城の街を裸で狂い歩く彼女に対し、人々はゴミや小石を投げつけます。(続く) 合掌 (奥原曇龍)

盆が来た亡き父母偲び寺参り

孫と一緒に南無阿弥陀仏

田辺多恵子



心光寺本堂前で水津家

ともしび法話

8月はお盆月。コロナの外出規制が解除されたので、今年は故郷への帰省ラッシュが心配されています。皆様お元氣ですか。異常な暑さが続く中、年寄りには熱中症に気をつけたいですね。心光寺のお盆の合同法要も8月13・14日でお待ちしています。心光寺坊守(ぼうもり) 奥原 博子

「お盆には家族で参る心光寺 先祖を偲び感謝で生きる」 心光寺のお盆合同法要に家族で参加し、みんなでお経をあげると心が喜びます。 倉敷市西中新田 古谷 洋子

「お盆だよ猛暑の中を墓掃除 亡き妻偲び感謝と懺悔」 「限りある命燃やして生き抜こう 死ぬのではなく浄土に生まれる」 倉敷市中島 山田 孝治

7月10日の九州北部(福岡・大分・熊本・佐賀)や山口県に線状降水帯で大雨が降り、川が氾濫しました。心よりお見舞い申し上げます。涙の数だけ強くなるよう。 倉敷市藤戸天城 縄田 君子

ともしび説法

日時・八月二十三日「水曜日」 午前十時から十二時まで。 「歎異抄(たんにしよう)に学ぶ」

場所・倉敷市早高四二六 心光寺(しんこうじ) 本堂にて 電話・(086)420-1311 駐車場有り

○ともしび説法・お寺の行事予定

- 九月 十五日(金)・午前十時から十二時まで・早高の本堂。
- 十月 二十日(金)・午後一時半から四時まで・早高の本堂。
- 十一月 三日(金)・午後一時から四時頃まで・早高の本堂。

☆ともしび会は、月額五百円の会費制です。(賛助会員募集中)。ともしび新聞を毎月発行し続けていますが、たくさんの方の費用がかかります。賛助会員になって下さる方があれば嬉しく思います。会員には、ともしびを郵送させていただきます。(お電話下さい)



こころの詩

今年もお盆がやって来た なぜか故郷に向かう人が多い 賑やかで忙しい都会を離れ ぬくもりのある人恋しさ求める 年々に故郷の景色が変わり のどかで静かな田舎も消えた 墓じまいも増え故郷なくなる



カット:吉岡美枝

◎ともしび制作費に御寄付ありがとうございました。

- 倉敷市 田邊様 3千円
- 倉敷市 早瀬様 4千円
- 総社市 土井建設様 1万円

浄土真宗の宗祖は親鸞聖人(しんらんしょうにん)です。お葬式の時にあわてて葬儀屋さんを紹介してもらうより、自分でお寺は決めよう。

〒710-0022 倉敷市早高426

浄土真宗(じょうどしんしゅう)心光寺

TEL(086)420-1311 FAX 420-1322

携帯電話 (090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「403号」となりました。心光寺は、誰でも気軽に来られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。ともしび説法の日には、茶屋町駅西口に9時30分にお寺より自動車でお迎えに行きます。自動車の送迎が必要な方は、心光寺までご連絡下さい。合掌 心光寺 総代長 本家豊彦